

MacOS 26.X Tahoe VAD Optimization Guide

VAD 4.x.x SUPPORTED macOS

- Sonoma 14.8.x: Supported
- Sequoia 15.7.x: Supported
- Tahoe 26.3 - 26.5: Supported (26.5.X recommended)
- Tahoe 26.6 : 認証手続き中(現時点ではリグレッションは確認されていません)

※ DAWメーカーの推奨OSバージョンをご確認ください。

- その他のOSバージョンに対応する VAD は、[こちら](#)をご覧ください。または 下記ページをご確認ください。

🔗 <https://merging.atlassian.net/wiki/spaces/PUBLICDOC/pages/4820445/Mac+Configuration+Gui...>

注意:

- メーカーによるハードウェアおよびソフトウェアの互換性が確認できるまでは、macOS Tahoeへのアップグレードを行わないでください。
- ギガビット・イーサネット・アダプターの使用をご検討ください。Merging社では以下の製品を強く推奨しています。

最大136 I/Oに対応: Sonnet Thunderbolt AVBアダプター

<https://www.sonnettech.com/product/thunderbolt-avb-adapter/overview.html>



最大24 I/Oに対応: InLine USB - イーサネット・アダプター

<https://www.inline-info.com/en/Inline-USB-3.2-to-2.5G-ethernet-network-adapter-cable-USB-C-to-RJ45>



これはApple製USBのパフォーマンス上の特性によるものであり、最新の macOS や M1/M2/M3/M4チップ搭載モデルにおいては、Belkin製USBアダプターの使用は推奨されません。なお これらの推奨事項は RAVENNA/AES67 および Dante AoIP に適用されます。

ANEMAN v2.x(またはそれ以降)を推奨

MT Discovery 20.0.x(またはそれ以降)を推奨

注:一部のmacOS環境において、インストーラーによるアップデートが正常に行えないケースが確認されています。

エラーコード「-1」や「Locked」エラーが表示された場合は、既存のMT Discoveryを「アプリケーション」フォルダから削除してから、新しいバージョンをインストールしてください。

インストールに関する注意事項

サードパーティ製ハードウェアおよびソフトウェアの互換性について

長年使用してきた特定のソフトウェアやハードウェアが、メーカーによるサポートを終了し、macOS Tahoeに対応するバージョンが提供されない場合があります。その場合、それらを新しいアプリケーションやデバイスに置き換えるかどうかを判断する必要があります。

Intel搭載Macについて

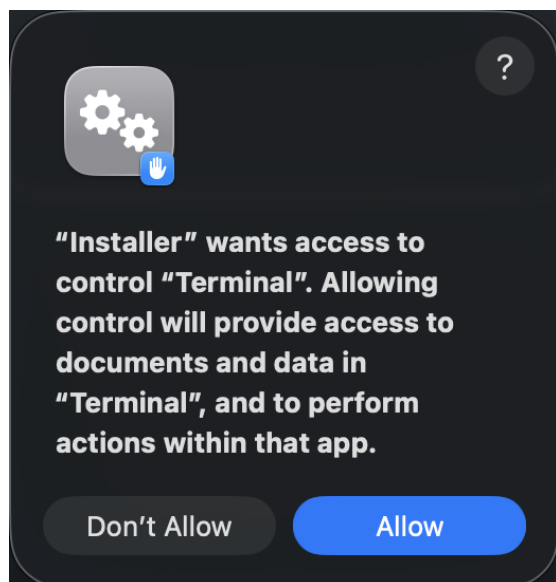
macOS TahoeはAppleシリコン搭載のすべてのMacで動作しますが、2019年および2020年に製造された特定のIntel搭載Macモデル(4機種)でも動作します。

VADのインストール

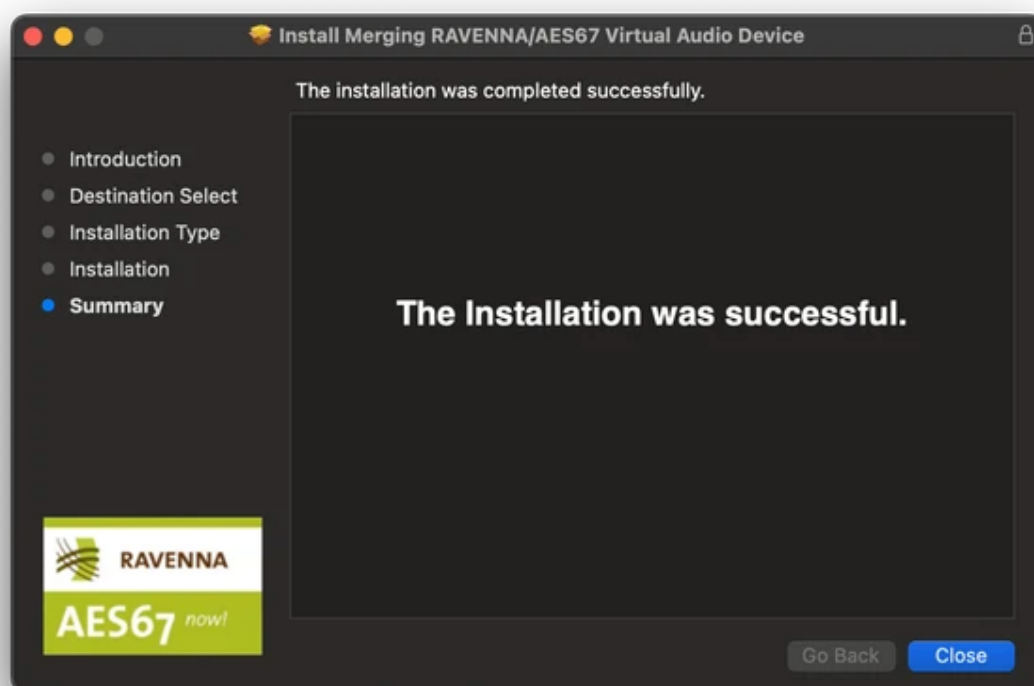
お使いのシステムにMT VAD 4.0以降をダウンロードし、起動してください。

INSTALLERS DOWNLOADS : [Merging Technologies - Downloads](#)

MT VAD 3.xからアップデートする場合、インストーラーによる「ターミナル」へのアクセスを許可してください。これにより、インストールの一環として、旧バージョン(カーネル拡張機能を含む)を適切に削除・整理することが可能になります。



インストールは正常に完了するはずであり、再起動は必要ありません。



VADの削除とクリーンアップ(任意)

1. Finderを開き、「アプリケーション」>「Merging Technologies」へ移動して、そこにある「Uninstall_All」を実行します。
2. 再起動します。
3. VADを再インストールします。

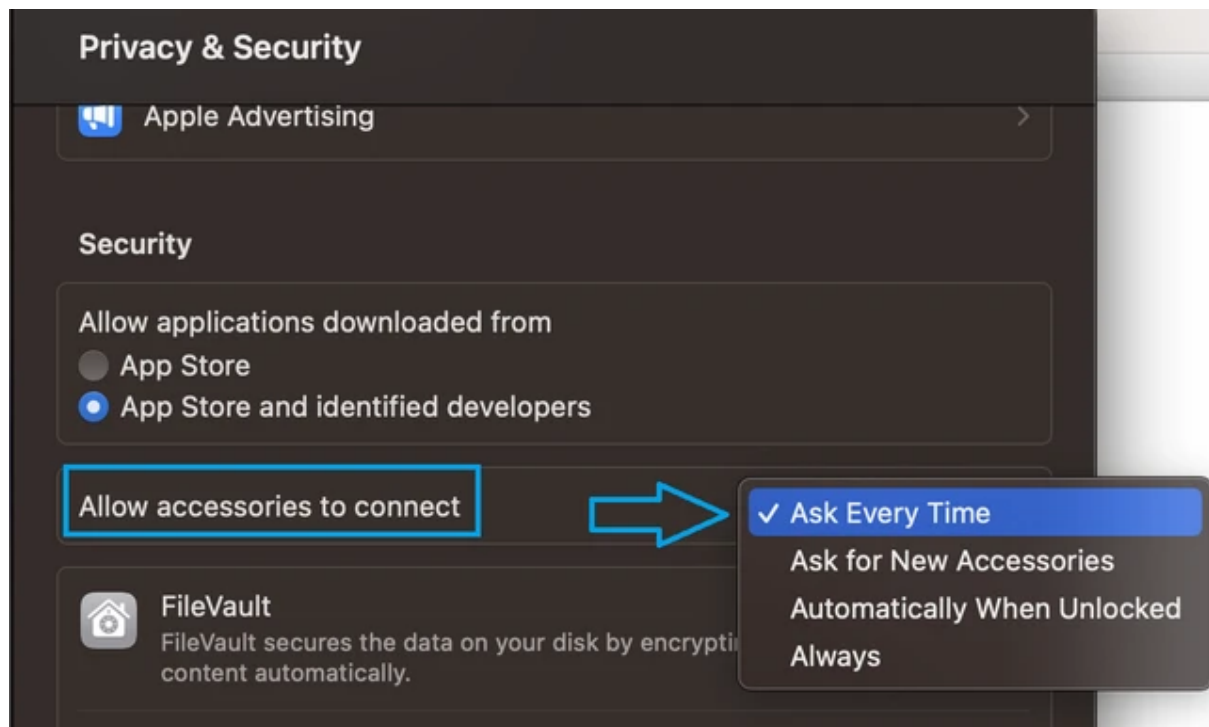
注意:「Uninstall_All」を実行すると、VADの設定や既存の接続情報は削除されます。

アクセサリが表示されない場合:

Sonnet製ネットワークアダプターなどのアクセサリの接続を許可しなかった場合、メッセージが表示されないことがあります。

メッセージを強制的に表示させるには、「プライバシーとセキュリティ」に移動し、ページを下にスクロールしてください。

「アクセサリの接続を許可」で「毎回確認」を選択してください。



ネットワークアダプターまたはインターフェースを再接続し、接続を許可してください。

その後、必要に応じて設定を「新しいアクセサリの接続を許可する前に確認」に戻すことができます。

注意:

macOSでは、NVRAMをリセットすることでオーディオの問題を解決できます。Appleの手順に従ってください。リセット後、システム構成ガイドラインを再度ご確認ください。

最適なパフォーマンスを得るためのTahoe設定ガイドライン

バックグラウンドプロセス

オーディオ制作においてコンピュータのリソースを最大限に活用するための最も重要なルールは、DAWでの作業中に使用していないアプリケーションをすべて終了させることです。

起動したままのアプリケーションはメモリを消費し、システムの処理能力を低下させます。また、バックグラウンドプロセスが動作し、オーディオの録音や再生に支障をきたす可能性もあります。

iCloud設定

「システム設定」を開きます。

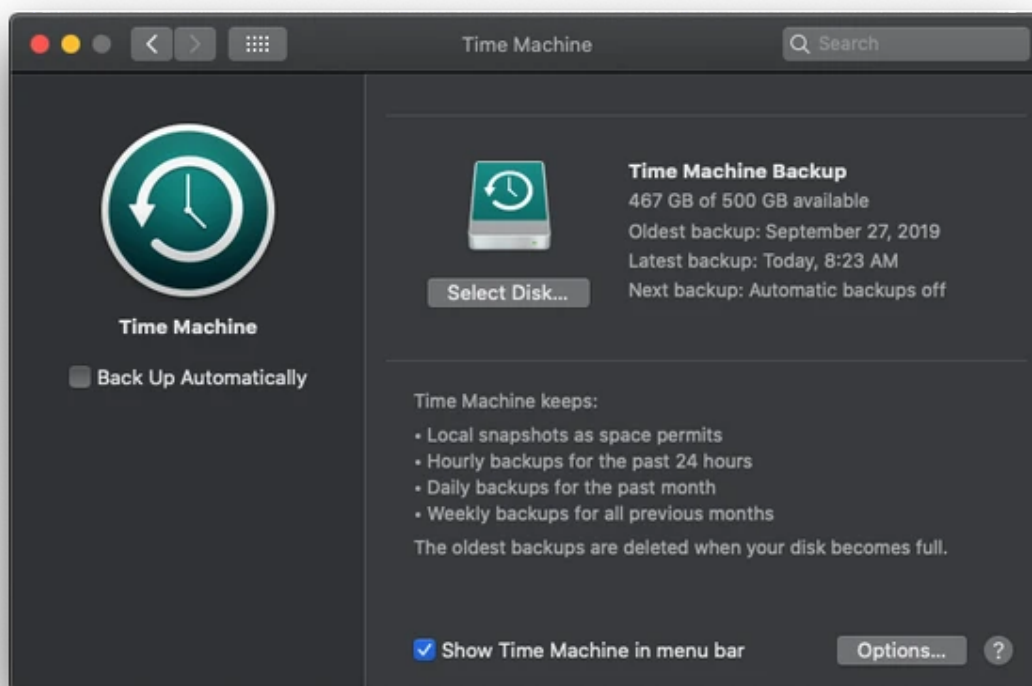
右側のパネルで「iCloud Drive」をクリックし、「オフにする」をクリックします。

「高度なデータ保護」も「オフ」にします。

注意:

Dropbox、OneDrive、Google Driveなどの他のクラウドサービスも同様にオフにしてください。

Time Machine



Time Machineを使用してMacをバックアップするのは良いことですが、音楽制作に使用するコンピュータの場合は、手動で実行することをお勧めします。

自動バックアップが有効になっていると、録音中にバックアップが開始された場合、問題を引き起こす可能性があります。

- 「システム設定」>「一般」>「Time Machine」に移動します。
- 「自動バックアップ」のチェックを外し、「自動バックアップ」を無効にします。
- Time Machineの「オプション...」メニューでは、バックアップが必要なドライブ（内蔵のMacintosh HDなど）のみを指定してください。

- 「バックアップの頻度」のドロップダウンメニューから「手動」を選択します。これにより、定期的なバックアップ処理が停止します。

バックグラウンド項目に関する通知

Merging社のVADソフトウェアをインストールした後、「バックグラウンド項目が追加されました」という通知が表示されます。

これらのバックグラウンド項目は、Merging社のソフトウェアやVADを正常に動作させるために必要です。

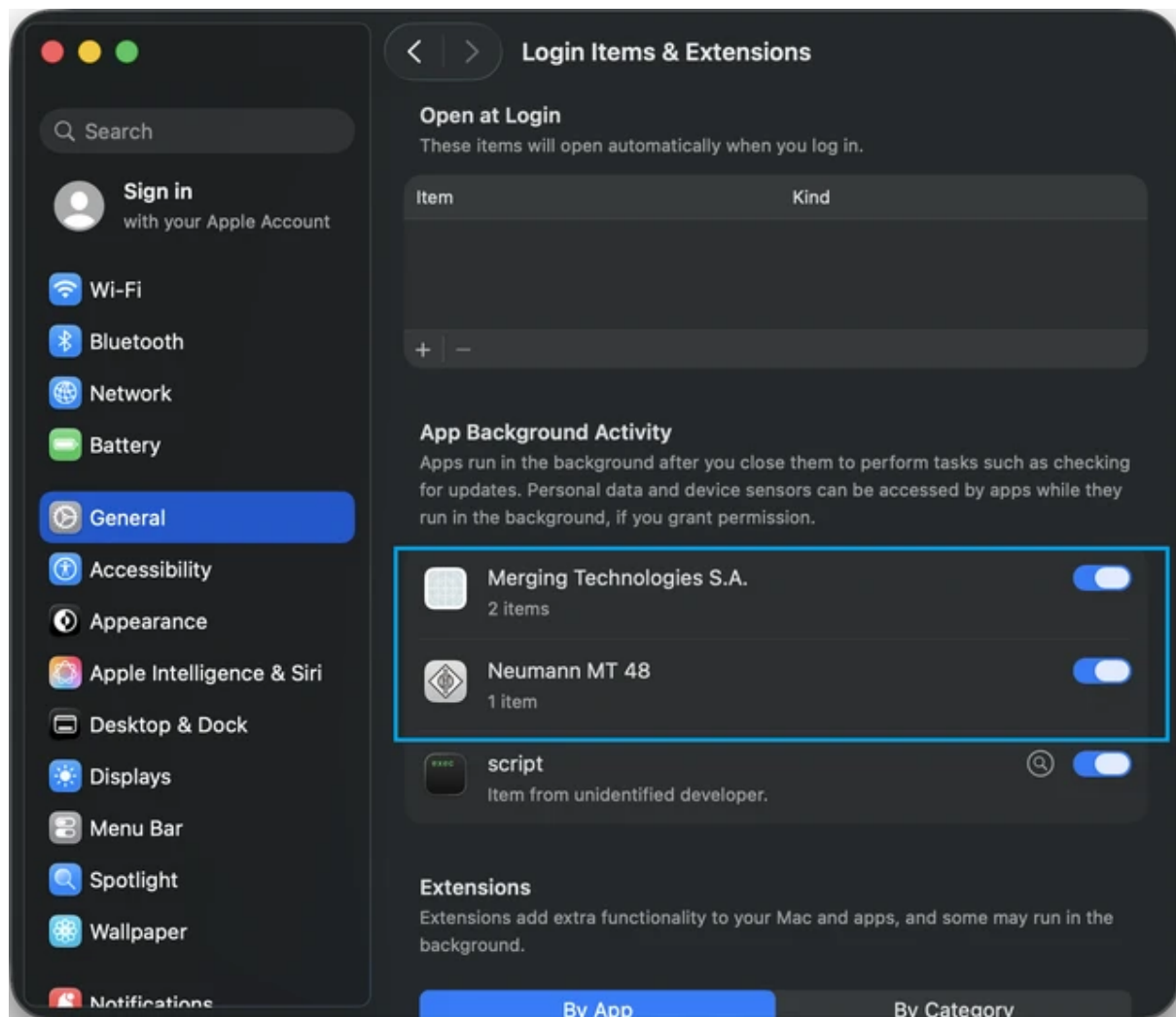
「システム設定」>「通知」>「アプリケーションの通知」を確認してください。

注意:

Merging Technologiesソフトウェアのバックグラウンド項目は、常に許可するようにしてください。

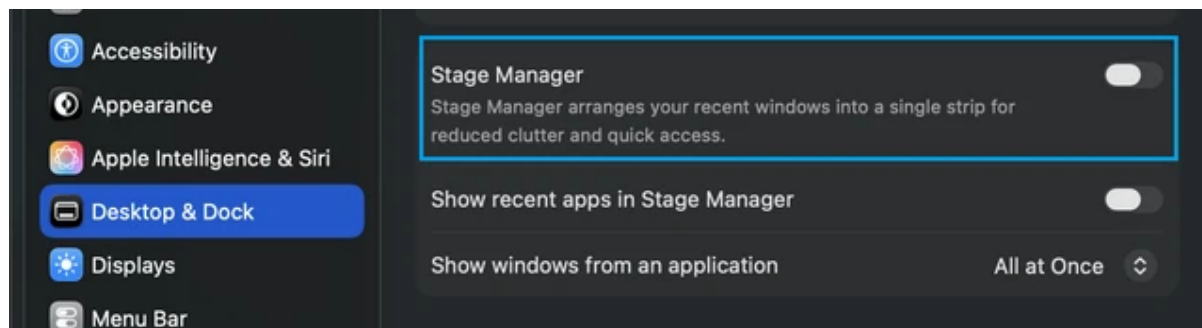
ログイン項目

- 「システム設定」>「一般」>「ログイン項目と機能拡張」に移動します。
「Appのバックグラウンドでの動作」セクションで、Merging Technologiesが有効になっていることを確認してください。



ステージマネージャを無効にする

- 「システム設定」>「デスクトップとDock」を開きます。
- 右側の画面を下にスクロールし、「ステージマネージャ」の項目を探します。
- スイッチをクリックして、ステージマネージャをオフにします。



壁紙とスクリーンセーバー

壁紙やスクリーンセーバーの設定はパフォーマンスや帯域幅に悪影響を及ぼすことはありませんが、最適化のためにシンプルな背景を使用し、スクリーンセーバーを使用しない設定にすることも可能です。

- 「システム設定」>「壁紙」で、画像を変更するのではなく、シンプルな背景を使用してください。
- 「スクリーンセーバー」メニューの「開始までの時間」のドロップダウンメニューで、「なし」を選択してください。

プライバシーとセキュリティの設定

「プライバシーとセキュリティ」で以下の設定を行います。

位置情報サービス

- 「システム設定」>「プライバシーとセキュリティ」>「位置情報サービス」に移動します。
- 「位置情報サービス」の右側にあるスイッチをオフにして、リストにあるすべてのアプリの位置情報サービスを一括で無効にします。
- 「システムサービス」の右側にある「詳細」をクリックします。
- 「システムサービスが位置情報にアクセスすることを許可」というダイアログボックスが開きます。
- 各設定を個別にオフにし、「完了」をクリックします。

プライバシー

- 「プライバシー」メニューの「マイク」で、音声の録音に使用するすべてのアプリ(DAWやオーディオデバイスを使用するアプリなど)にチェックを入れます。
- 「プライバシー」メニューの「アクセシビリティ」で、iLokおよびその他の必要なオーディオ関連アプリやライセンス管理アプリにチェックを入れます。

分析と改善

- 「システム設定」>「プライバシーとセキュリティ」>「分析と改善」に移動します。
- 個々のオプションをオフにします。

アプリケーションのダウンロードを許可

- 「セキュリティ」メニューの「アプリケーションのダウンロードを許可」で、「App Storeと確認済みの開発元」を選択します。

FileVault

- 「セキュリティ」メニューで、FileVaultをオフにします。オンになっている場合は、iCloudアカウントまたは復旧キーを使用してオフにしてください。

ファイアウォールの無効化

- 「システム設定」>「ネットワーク」>「ファイアウォール」に移動します。
- ボタンをクリックしてオン／オフを切り替えます。
- オンになっている場合は、「オプション」ボタンをクリックして追加設定を行うことができます。

省エネルギー設定の最適化

この最適化により、システムリソースが解放されるほか、コンピュータがスリープやスタンバイモードに入るのを防ぐことができます（スリープ等はソフトウェアやハードウェアでの音声の音切れの原因となる可能性があります）。

注意:

一部のオプションは、すべての Mac で使用できるわけではありません。

- 「システム設定」>「バッテリー」（ノート型）または「省エネルギー」（デスクトップ型）に移動します。
- 「低電力モード」を「なし」に設定します。
- 「グラフィックの自動切り替え」のチェックを外します。
- 「オプション」メニューを開きます。
- 「ディスプレイがオフのときに電源アダプタ使用時の自動スリープを防ぐ」にチェックを入れます。
- 「ネットワークアクセスによるスリープ解除」を「なし」に設定します。
- 「可能な場合はハードディスクをスリープさせる」のチェックを外します。「停電後に自動的に起動」のチェックを外します。
- 「Power Napを有効にする」のチェックを外します。

Wi-Fiをオフにする

お使いのコンピュータにBluetoothやWi-Fi機能が搭載されている場合、オーディオアプリケーションを正常に動作させるために、これらを無効にする必要がある場合があります。

システムリソースを解放するだけでなく、これらを無効にすることで、DAEエラー -6085、-6086、-6101の解決に役立つことがあります。

特定のデバイスや機能（iLok Cloud、EuConコントローラー、Ableton Linkなど）で使用する場合を除き、Wi-Fiをオフにし、Ethernetポートの接続も解除してください。

- 「システム設定」>「Wi-Fi」を開きます。
- 右側で、Wi-Fiを無効にします。
- Wi-Fiを使用する必要がある場合は、「新しいネットワークへの接続を確認」をオフに設定してください。
- Bluetoothを無効にする
- 「システム設定」>「Bluetooth」を開きます。
- 右側で、Bluetoothを無効にします。

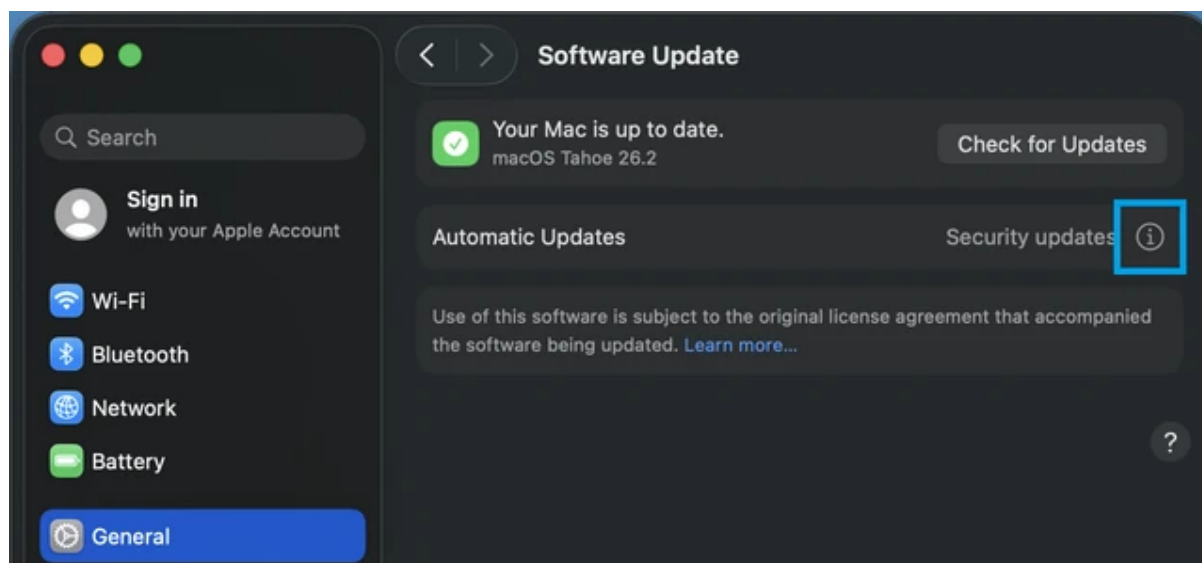
自動アップデート

Macのソフトウェアアップデートの中には、DAWやドライバーと競合を引き起こすものがあります。

そのため、OSの自動アップデート機能を無効にすることをお勧めします。

必要なアップデートがある場合は、手動でMacのソフトウェアをアップデートすることができます。

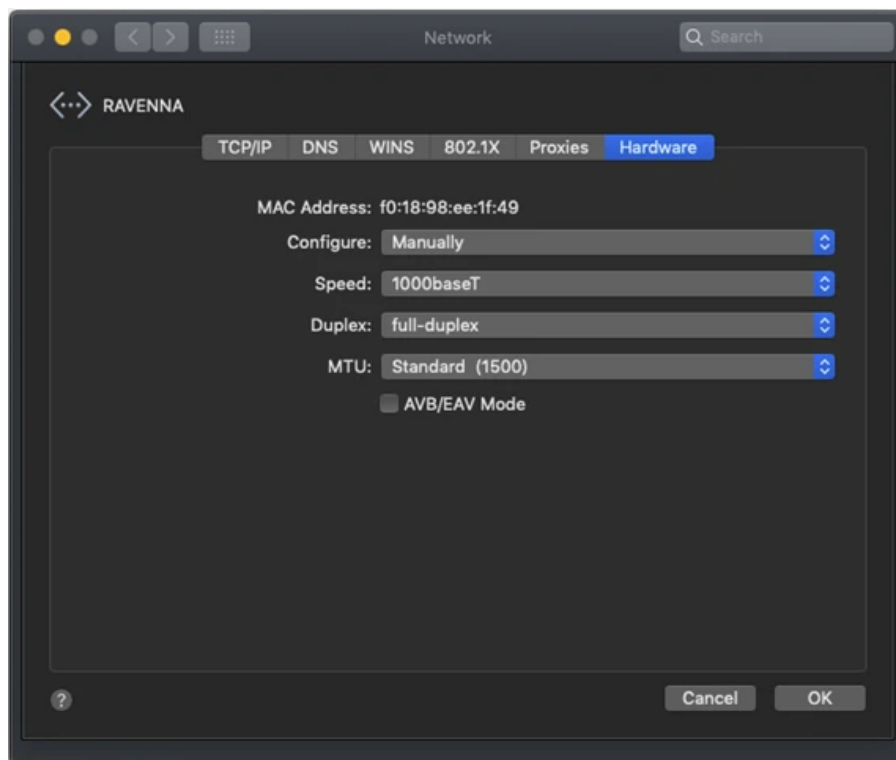
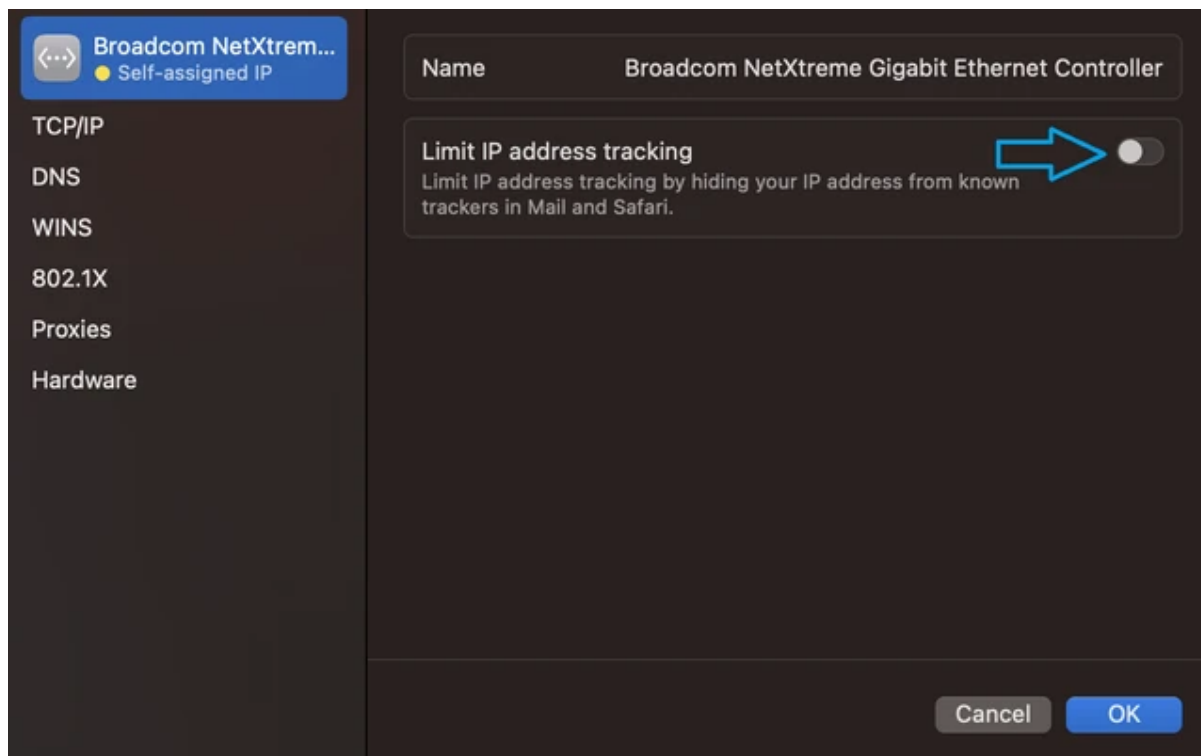
1. 「システム設定」>「一般」>「ソフトウェアアップデート」の順に進みます。
2. 「自動アップデート」の横にある情報アイコンをクリックすると、ダイアログボックスが開きます。
3. 各ボタンをクリックしてオプションを無効にし、「完了」をクリックします。



ネットワーク

Macのネットワーク機能は、処理リソース(帯域幅)を消費したり、一部の機能を妨げたりする可能性があります。YouTubeの視聴、メールの確認、Pro ToolsやLiveのセッション実行を同時に行えるシステムは多いものの、それによってパフォーマンスが低下したり、ソフトウェアやハードウェアの動作に不具合が生じ、再起動や再設定が必要になったりすることもあります。

- RAVENNA/AES67ネットワーク用にそのポートへネットワークインターフェースを接続している場合を除き、ネットワーク接続にThunderboltポートを使用しないときは、Thunderboltネットワーク機能を無効にし、設定を削除してください。
- ネットワークインターフェースを2つお持ちの場合は、一方をRAVENNA/AES67ネットワーク専用とし、もう一方のEthernet接続をインターネットアクセス用に使用してください(内蔵Wi-Fiの代わりに)。
- インターネットアクセスが必要で、かつEuconコントローラーなどのネットワークデバイスを使用する場合は、デバイスにはEthernetまたはThunderbolt接続を使用し、インターネットアクセスにはWi-Fiを使用してください。
- リモートコントロールに内蔵Wi-Fiを使用する場合は、インターネットアクセス用にEthernetまたはThunderboltのネットワーク接続を使用してください。
- RAVENNA/AES67ネットワークに接続されているネットワークインターフェースにおいて、Duplex(全二重)設定が「Full-duplex」(「Full-duplex, Energy-Efficient Ethernet」ではないもの)に設定され、Speedが「1000baseT」になっていることを確認してください。
- これらの設定は、「詳細(Advanced)」>「ハードウェア(Hardware)」タブで変更可能です。
- 「IPアドレスの追跡を制限(Limit IP Address Tracking)」を無効にしてください。



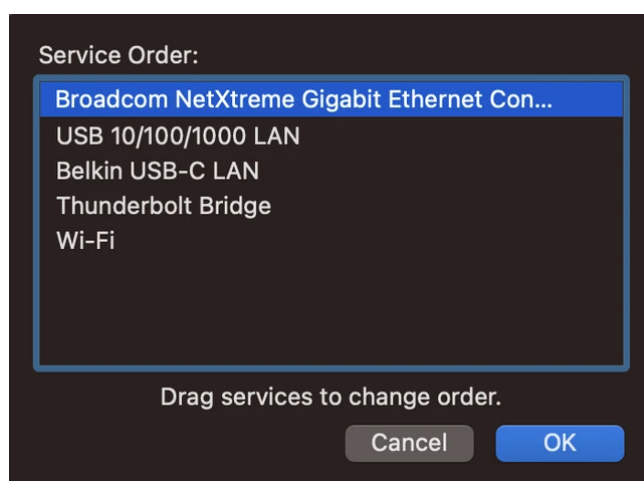
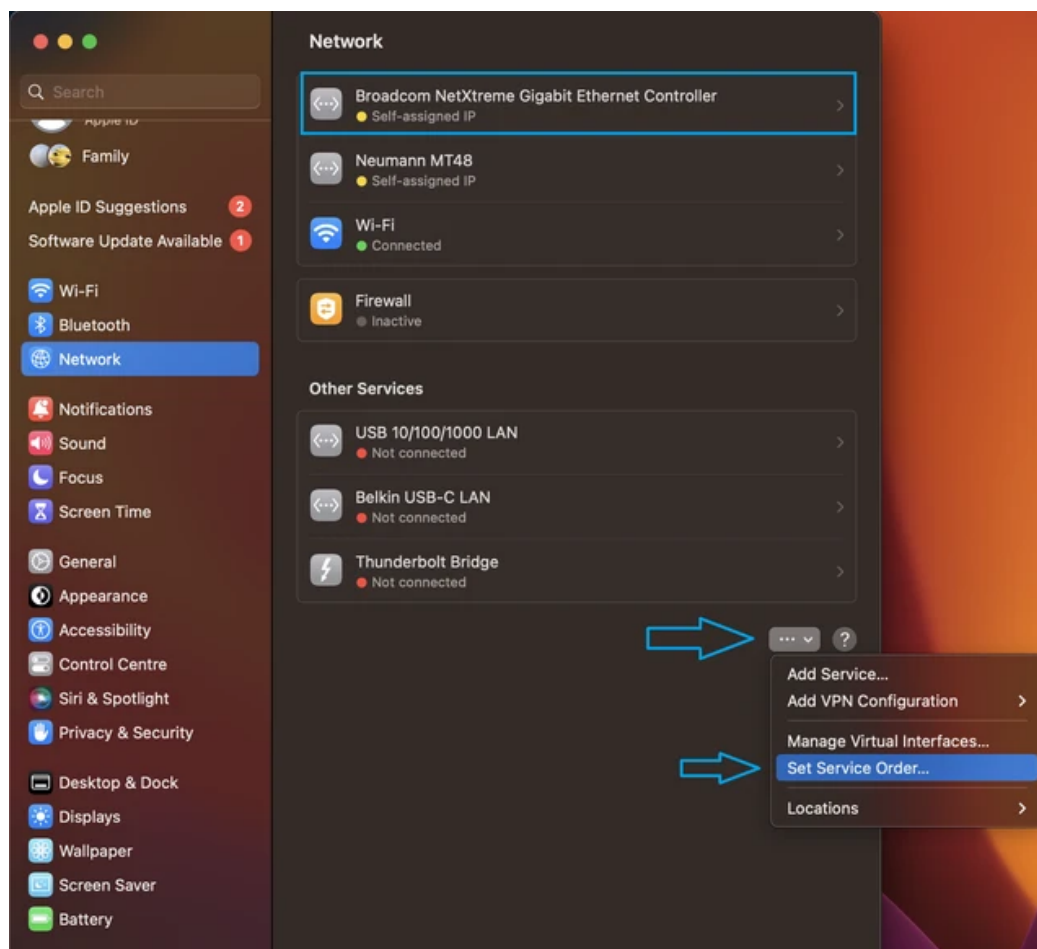
注意:

接続を遮断する恐れのある「Little Snitch」などのウイルス対策アプリケーションの使用は避けてください。

まず Ravenna ネットワークのサービス順序を設定します

1. 「システム環境設定」を開きます。
2. 「ネットワーク」をクリックします。

3. 左側のサイドバーに、認識されているすべてのネットワークインターフェイスが表示されます。サイドバーの下にある歯車アイコンをクリックし、「サービス順序を設定...」を選択します。
4. RAVENNA/AES67ネットワークに接続しているネットワークインターフェイスを、サービス順序の最上部にドラッグして移動します。
5. 「適用」ボタンをクリックして変更を保存します。



上記の例で一番上に挙げられているのが、推奨されるSonnet製AVBアダプターです。

未使用のネットワークアダプターを無効にする

お使いのMacには、使用していないソフトウェア・ネットワーク・インターフェースが設定されている場合があります。これらはUSBやThunderboltバス上のデータ転送に干渉する可能性があるため、無効にしておくことをお勧めします。

「システム設定」>「ネットワーク」に移動します。

Wi-FiとEthernet（イーサネット）のインターフェースは残しておく必要があります。

1. 使用していないネットワーク・インターフェース（例：「Thunderbolt Bridge」など）をクリックします。
2. 表示された画面で「非アクティブにする」をクリックします。「サービスを削除」をクリックしても構いません。
3. 他にも不要なインターフェースが表示されている場合は、同様の操作を繰り返します。

注意:

以前接続したネットワーク・インターフェースが原因で、正常な「Sync Lock（同期）」が行われないことがあります。問題が発生した場合はアダプターの履歴を削除してください（インターフェースを削除し、USBポートを変更して再作成するなど）。

オーディオの不具合（グリッチ）が発生する場合

不具合が発生した場合は、VADパネルでレイテンシー（Latency）の値を大きくし、使用中のすべてのブラウザを閉じてみてください。

「Sudden Motion Sensor」を無効にする（ノート型Macのみ：一部のモデルでは利用できません）。

騒音の大きい環境で録音を行う場合、この設定変更を行うことで、突発的動作保護機能が作動してPro Toolsで「-9073」エラーが発生するのを防ぐことができます。

- デスクトップ上の「Macintosh HD」アイコンをダブルクリックします（別の名前に変更している場合は、そのシステムドライブ名になります）。
- 「アプリケーション」フォルダに移動します。
- 「ユーティリティ」フォルダに移動します。
- 「ターミナル」をダブルクリックします。
- 「sudo pmset -a sms 0」と入力し、Returnキーを押します（「0」と入力すると無効になります）。
- 求められたら管理者パスワードを入力します。
- 「sudo pmset -g」と入力し、設定が適用されたことを確認します。

「Sudden Motion Sensor」を再度有効にする場合：

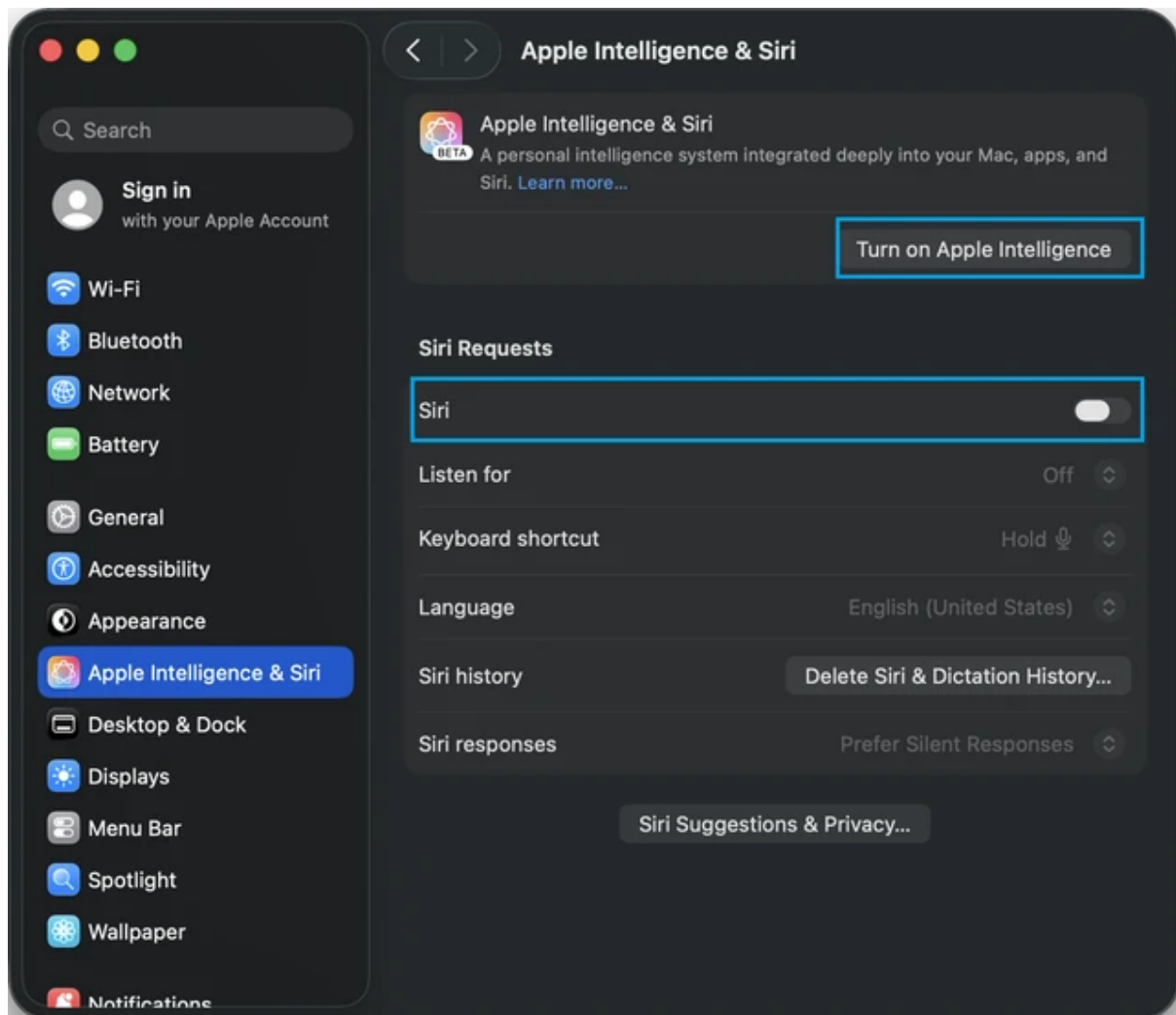
- 上記の手順で「ターミナル」を開きます。
- 「sudo pmset -a sms 1」と入力し、Returnキーを押します（「1」と入力すると有効になります）。

- 求められたら管理者パスワードを入力します。
- 「sudo pmset -g」と入力し、設定が適用されたことを確認します。

Apple IntelligenceとSiri

Apple Intelligence と Siri は録音には不要であり、パフォーマンス(帯域幅)を制限する可能性があります。必要に応じて再度有効にしてください。

- 「システム設定」>「Apple IntelligenceとSiri」に移動します。
- Apple Intelligenceが無効になっていることを確認します(「Apple Intelligenceをオンにする」と表示されている状態)。
- Siriを無効にします。



Spotlightのインデックス作成を有効にする

DAWは、ワークスペース・データベースの検索操作において Spotlight のインデックス機能を利用します。そのため、すべてのマウント済みドライブに対して Spotlight のアクセスを許可しておくことが推奨されます。通常はデフォルトで有効になっていますが、Spotlight の対象から除外されているドライブがないか確認するために、以下の手順を行ってください。

- 「システム設定」>「Spotlight」を開きます。
- ページ下部にある「検索のプライバシー」ボタンをクリックします。
- このリストにドライブが表示されていないことを確認してください(空の状態である必要があります)。
- もしドライブが表示されている場合は、各ドライブを選択し、リストの下にあるマイナス(-)ボタンをクリックして削除してください。

注意:

Spotlight が有効な状態で長時間(50分以上)の録音を行うと、50分経過後に録音が停止してしまう場合があります。

長時間の録音を行う際はSpotlightを無効にし、録音終了後に再度有効にすることをお勧めします。

Spotlightを無効にする(launchctlを使用)

`/Applications/Utilities/Terminal` (ターミナル) で `sudo launchctl unload -w /System/Library/LaunchDaemons/com.apple.metadata.mds.plist` を実行します (管理者パスワードが必要です)。

Spotlightを再度有効にする(launchctlを使用してlaunchdに再読み込み)

`sudo launchctl load -w /System/Library/LaunchDaemons/com.apple.metadata.mds.plist` を実行します。

サウンド(Audio MIDI 設定)

「サウンド」設定は、オーディオの入出力に使用するデフォルトのオーディオデバイスを選択するためのものです。デフォルトでは、Macの内蔵スピーカーとマイクが選択されています。

Macのデフォルト・オーディオデバイスとして使用するには、ここでオーディオインターフェース(MERGING RAVENNA/AES67 VAD)を選択してください。

DAW や Teams など、独自のソフトウェア設定を持つアプリケーションでは、オーディオ入出力デバイスに関する個別の設定が必要になる場合があります。

Macのシステム音とDAWの音声を同時にモニターしたい場合は、MERGING+ANUBISを使用し、DAW用とプレーヤーやオンライン再生用(音楽など)の2つの異なるソースを使用することをお勧めします。

詳細については、[Anubisユーザーマニュアル](#) の「ソース作成(Source Creation)」の章をご参照ください。

ディスプレイ

お使いのモニターに最適な解像度を設定してください。自動設定の「デフォルト」を選択するか、「スケーリング」を選択して利用可能な解像度設定から選ぶことができます。利用可能な最大解像度を使用すると、画面の表示領域を最も広く確保できます。表示が小さすぎると感じる場合は、解像度を下げてみてください。



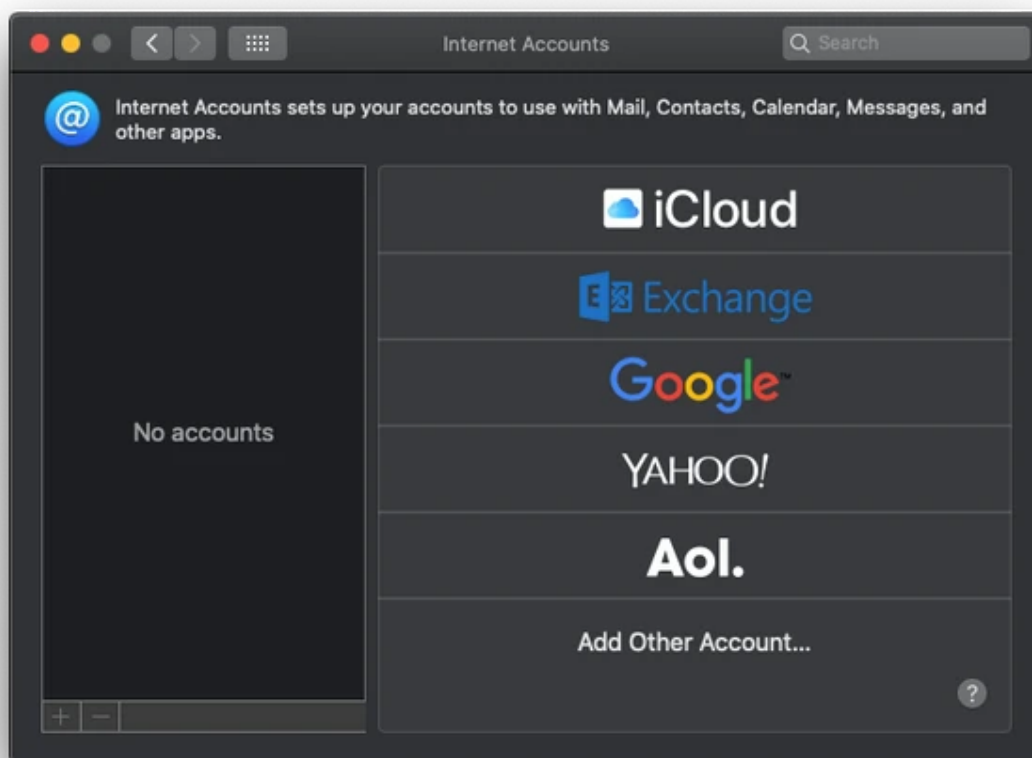
インターネットアカウント

MacでiCloud、Google、Exchangeなどのインターネットアカウントを設定すると、「メール」、「連絡先」、「カレンダー」、「メッセージ」といったアプリを便利に同期できるようになります。

特にMacを唯一のコンピュータとして使用している場合、こうしたアカウントの設定は必要になることが多いものの、使用しないアカウントまで設定しておく必要はありません。

音楽制作ソフトで作業する際は、これらのアプリを閉じておくのが理想的ですが、不要なアカウントが追加されていると、アプリの読み込みや同期に時間がかかる原因となる可能性があります。

「インターネットアカウント」の設定から、不要なアカウントや使用していないアカウントをすべて削除することをお勧めします。



トラブルシューティング

このトラブルシューティング手順は、他のアプリケーションの設定（プリファレンス）との競合が原因でDAWに問題が生じている場合に役立ちます。新しいユーザーアカウントを作成すると、最初はアプリケーションのユーザー設定が含まれていないため、実質的に「クリーンな状態」から開始できます。

- 「システム環境設定」を開きます。
- 「ユーザとグループ」をクリックします。
- 鍵アイコンをクリックして認証を行い、パスワードを入力します。
- ユーザーリストの下にある「+」ボタンをクリックします。
- 「新規アカウント」の種類を「管理者」に設定します。
- 新しいユーザーに任意の名前とパスワードを設定します。
- 「アカウントを作成」をクリックします。
- その後、新しいアカウントにログインし、DAWを起動します。
- Appleメニューから「[ユーザー名]からログアウト」を選択します。
- ログイン画面が表示されたら、新しいユーザーとしてログインします。
- DAWを起動します。

ログイン項目の削除

「ログイン項目」とは、ユーザーアカウントへのログイン時に自動的に起動するアプリケーションのことです。不要なログイン項目を削除することで、DAWとの競合の原因となる要素を減らすことができます。

- 「システム設定」>「一般」>「ログイン項目と機能拡張」に移動します。

- リスト内の項目を一つずつ選択し、リストの下にある「-」ボタンをクリックして削除します（ログイン時に起動する必要が絶対にある場合を除きます）。

これらのアプリはいつでも手動で起動できますが、起動時に自動的に読み込まれることはなくなります。

Rosetta 2: リソースを大量に消費する変換プロセス

Rosetta 2は、Intel プロセッサから Apple プロセッサへの移行を橋渡すために設計されたエミュレータです。簡単に言えば、Intel 向けに作成されたアプリを Apple シリコン上で動作するように変換するものです。

このプロセス全体はバックグラウンドで実行され、パフォーマンスに影響を与える可能性があります。Rosetta 2で動作しているアプリケーションを確認してください。

1. 「アプリケーション」>「ユーティリティ」>「アクティビティモニタ」を開きます。
2. アクティビティモニタで「種類」の列を選択します（表示されていない場合は、メニューオプションから有効にしてください）。
3. 「種類」が「Intel」となっているアプリケーションは、Rosetta 2で動作しているものです。
4. Intel/Rosetta 2 アプリケーションの CPU およびメモリ使用量を確認してください。

一部のDAW、プラグイン、あるいは Dolby Renderer などは、Intel プロセッサ向けにコンパイルされたままになっていることが知られています。これらは最適化されていないため、システム全体のパフォーマンスを低下させる可能性があることにご注意ください。

拡張機能 (Extensions)

macOSの拡張機能は、プロオーディオシステムでは一般的ではなく、追加の設定も必要ありません。Macでパフォーマンスの問題が発生している場合は、カスタマイズされた拡張機能を無効にすることを検討してください。

プリンタとスキャナ

プリンタやスキャナは、ドライバを使用してMacに接続します。USBケーブルで接続するものもあれば、AirPrintやデバイスに付属のサードパーティ製アプリを介してワイヤレスで接続するものもあります。

オーディオデバイスやMIDIデバイスを使用している間、Macでプリンタを使う必要がない場合は、電源を切るか、物理的に接続を解除してください。

プリンタにジョブが残っている場合や、Macがプリンタを接続中と認識している場合は、「プリンタとスキャナ」のリストからプリンタの接続を解除できます。

使用していないプリンタやスキャナのデバイスをすべて選択し、「-」ボタンをクリックしてMacから接続を解除します。

日付と時刻

デフォルトでは、日付と時刻は位置情報サービスによって設定されます。不要な処理を最小限に抑えるため、タイムゾーンを手動で設定することをお勧めします。

「現在地を使用してタイムゾーンを自動的に設定」のチェックを外し、タイムゾーンを手動で設定してください。

起動項目 (Startup Items) の整理

「起動項目 (Startup Items)」は「ログイン項目 (Login Items)」と似ていますが、使用しているユーザーアカウントに関係なく、コンピュータの起動時に開始されます。不要な起動項目を削除するには：

- Macintosh HDを開きます。
- 「ライブラリ(Library)」フォルダに移動します。
- 「StartupItems」フォルダに移動します。
- 不要な項目を削除します。

注意:

OSの動作自体はこのフォルダ内のファイルに依存していませんが、不明な「スタートアップ項目」を削除する際は、重要な機能が失われないよう、事前にその機能をよく確認してください。

DAWソフトウェアの設定

- サンプルレートを一致させる(VADパネルとMERGINGインターフェース)
- レイテンシーを一致させる(例: VADパネルとインターフェースの両方で64サンプル、またはAES67-48サンプルに設定)
- 再生デバイスを選択する(MERGING RAVENNA/AES67 VAD)
- 入出カルーティングを設定する(Merging ANEMANを使用)

注意:

詳細については、Mergingの各ユーザーマニュアルを参照してください。

互換性とシステム要件

DAWを正常に動作させるには、お使いのMacがそのDAWの最小システム要件を満たしている必要があります。

つまり、macOSのバージョン、RAM(メモリ)、プロセッサがDAWのバージョンに対応している必要があります、そうでない場合、ソフトウェアが正しく動作しなかったり、起動すらしなかったりする可能性があります。

最新のシステム要件については、ソフトウェアメーカーの製品ページやサポート情報をご確認ください。

オーディオ再生設定

多くのDAWやバーチャルインストルメント(ソフト音源)は、オーディオデバイスの設定を使用してオーディオの録音や再生を行います。

そのため、まずオーディオソフトウェア内でオーディオデバイスを選択する必要があります。

DAWとオーディオデバイスが適切に設定されているか確認するには、両方で同じサンプルレートを使用するようにします。

設定が一致していないと、ポップ音やクリック音、音の歪み、あるいは無音状態が発生する可能性があります。

また、ソフトウェアとハードウェア間でオーディオが正しくルーティングされていることも確認してください。

つまり、ソフトウェアから出力されるオーディオは正しいオーディオデバイスの出力へ送られ、入力信号は正しい入力チャンネルとトラックへルーティングされる必要があります。

DAWとオーディオデバイスの設定が完了すれば、設定を変更しない限りその状態が保持されます。

多くのDAWや新しいオーディオインターフェースには、ルーティングや入出力の設定を保存・呼び出しする機能があります。

設定を簡単に呼び出せるように、またバックアップとして、スタジオ用の専用フォルダにこれらの設定を保存しておくことをお勧めします。

MIDIデバイスと「Audio MIDI設定」の構成

MIDIデバイスはオーディオデバイスと同様に接続しますが、オーディオデータの代わりにMIDIデータを使用します。最適化を行う最善の方法は、MIDIデバイスリストを更新し、使用している未指定のMIDIポートに名前を付けることです。

例えば、MIDIケーブルを使って機器をMIDIインターフェースやオーディオインターフェースのMIDIポートに接続した場合、デバイスの実際の名称ではなく「MIDIポート」として表示されることがあります。「Audio MIDI設定」アプリを使用してMIDIデバイスのリストを更新し、新しい構成を作成してください。

iLokドライバのアップデート

これにより、オーディオアプリケーションの起動に関する問題や、一部のプラグインの認証に関する問題が解決する場合があります。

- [iLok のウェブサイト](#) にアクセスします。
- **iLok License Manager** をダウンロードしてインストールします。

Boot CampおよびFusion Driveに関する問題

Fusion Driveを搭載した一部のMacで、ユーザーがツールを使って新しいパーティションを作成できなくなる可能性がある問題。

Appleは、iMac、macOS Mojave、Boot Camp、およびFusion Driveの組み合わせにおいて、マシンが期待通りに動作しなくなる問題を認識しています。

この問題に対する修正は、macOS 10.14.5で実施されました。

警告: サウンドエンハンサー

「サウンドエンハンサー」は、低音域と高音域のレスポンスを調整することで、ステレオ効果の「広がり」を強調する機能です。

この設定は、Macの「ミュージック」アプリ内の「ミュージック」>「環境設定」>「再生」オプションにあります。

「サウンドエンハンサー」が有効になっていると、再生される音声は元の（基準となる）音声とは異なるものになります。そのため、マスタリング済みの基準用オーディオファイルを「ミュージック」アプリで再生・確認する際には、この機能を無効にすることをお勧めします。

その他

以前の MacOS は VAD 3.0 以下でサポートされています

- macOS Sonoma 14.x
MT VAD 4.0以降でサポート
- macOS Sequoia 15.x
MT VAD 4.0以降でサポート
- macOS Tahoe 26.3
MT VAD 4.0以降でサポート